

# 図画工作科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校  
教諭 〇〇 〇〇

- 1 日 時 平成22年11月〇日 (〇)
- 2 学 年 第6学年〇組
- 3 題材名 『〇〇物語 新作短編物語』～物語の場면을絵に表そう～

## 4 題材について

- 本学級の児童は、図画工作の時間を楽しみにしており、特につくる活動には意欲的である。一方、絵に表すことには苦手意識をもつ児童がおり、実物そっくりにかけないと自信をなくして投げやりになったり、人物表現を避けようとしたりする姿が度々見られる。

発想や構想については、自分で自由に対象を選んだり、発想をふくらませたりする場面において自己決定が難しい児童がおり、常に声かけ等の支援を要する。また、自分の思いつきを言葉に発しなれば先に進めない児童もいる。

技能面では、絵で表す題材の経験が少なく、水彩絵の具を思うように使ったり、効果的に使ったりする満足感を十分に味わえておらず、水彩絵の具を好まない児童がいる。また、色紙を貼ったりコンテやパス等いくつかの画材を組み合わせて表す経験はあるものの、それらを自分の表現の選択肢として進んで試そうすることは少ない。

鑑賞に関しては、美術館での名画や互いの作品の鑑賞を通して、自分らしい表現のよさに気付いたり、多様な表現を認め合ったりすることができるようになってきている。

- この題材は、卒業を前に、自分たちが生活している〇〇を舞台にした物語を創作し、その一場面を絵に表すものである。児童はこれまで、地域特産の広島菜について調べたり、〇〇の義勇隊等をもとに戦争や平和について考えたりしてきた。現在も総合的な学習の時間において、フィールドワークや読書を通して、〇〇の風土や歴史について学習を進めている。

そこで、こうした児童自らが地域を見つめる総合的な学習の時間をもとに、自分のお気に入りの場所や思い出の場所、歴史や人々の営みを感じる場所や物事をもとに想像をふくらませ、読み手がふるさと〇〇を大切に思ってくれるような物語を創作することにした。また、この物語を他学年に見てもらおう計画を立て、読み手を意識しながら丁寧に取り組もうとする意欲を喚起したい。

- 指導に当たっては、児童が、物語の舞台となる場所に思いを寄せながら表現することができるよう、総合的な学習の時間との関連を図り、場所を決める期間を1週間程度確保する。

発想段階では、アイデアがうかびにくい児童への支援として、総合的な学習の時間で学習した地域の歴史やいわれ等の記録を振り返りながら、物語や図案の相談に乗るように努めたり、参考になる絵本を一緒に探したりすることを考えている。また、物語の構想段階から児童のアイデアの把握に努め、積極的に相談に乗るようにする。

表現段階では、自分の表現に合う方法を選択できるよう、水彩絵の具だけでなく、コンテやクレパス、色鉛筆、ちぎり絵等の画材を紹介したり、絵本からヒントを得られるように教室環境を整えたりする。さらに、用紙については、児童が自ら選ぶことができるよう、B5やB6等のものを用意する。

鑑賞については、表現の途中で自他の作品を鑑賞する場を設定し、表現のヒントにしたり、よさを認め合ったりするようにする。また、完成後の鑑賞では、物語を読み合う時間をとり、感じたことを交流して互いの表現意図や特徴をとらえ、作品のよさを感じ取らせるようにする。

5 題材の評価規準

観点	題材の評価規準	学習活動における具体的評価規準
ア 造形への 関心・意欲・態度	物語の場面を決め、その場面を表すために、様々な方法を試み、意図した効果を表そうとしたり、自他の作品を自分の思いをもって味わおうとしたりしている。	① 物語のどの場面を表すかを決め、どんな表し方がよいか試したり、絵本等の参考になるものを探したりしている。 ② 自他の作品の表現意図や特徴などをとらえ、自分の思いをもって味わおうとしている。
イ 発想や構想の 能力	自分がイメージした場面が表れるよう、形や色、配置などを考えている。	① 自分がイメージした場面が表れるよう、形や色、配置などを考えている。
ウ 創造的な技能	自分がイメージした場面に合うよう、水彩絵の具や筆、その他の画材の特徴を生かしながら、濃淡やにじみ等、表し方を工夫している。	① 自分がイメージした場面に合うよう、水彩絵の具や筆、その他の画材の特徴を生かしながら、濃淡やにじみ等、表し方を工夫している。
エ 鑑賞の能力	感じたことを話し合いながら、自他の作品の表現意図や特徴をとらえ、よさを感じ取っている。	① 様々な方法を試みながら、濃淡やにじみの感じ、その他の画材による効果をとらえている。 ② 自他の作品について感じたことを話し合いながら、効果的と感じる表し方を見つけ、表現意図や特徴をとらえている。

6 指導と評価の計画（全8時間）\*物語を考える活動は、総合的な学習の時間と国語科で行う。

時間	学習活動	支援・留意点	評価規準・方法
第一次	1 表す場面を決め、イメージをふくらませながら構想を練る。	考えた物語の場面に合う形や色、画材や表し方を考えよう ・ いろんな画材を試したり、思いついたことを気軽にかけるよう紙を用意しておく。 ・ 多様な画材や表し方をしている絵本を見比べる。	アー① イー① ・活動の様子の観察 ・試しにかいた絵 ・自己評価カード
第二次	2 3 4 5 6 (本時3/8時間) 考えた場面を、画材や方法を工夫しながら絵に表す。	場面に最も合う画材や方法を工夫して、読み手に伝わるよう絵に表そう ・ 多様な表現を試せるよう、幾つかの画材を用意する。 ・ 参考にしたい絵本があれば傍らに置いてよいこととする。 ・ アイデアに迷う児童の相談に乗り、一緒に画材を試したり表現方法を提案したりする。	ウー① ・活動の様子の観察 ・自己評価カード ・作品や試しがき エー① ・活動の様子の観察
	7 物語の表紙をつくる（表紙絵、題字、台紙）。	・ 場面の絵の雰囲気を踏まえて考えさせる。	
第三次	8 作品を読み合い、よさや工夫を伝え合う。	〇〇物語 ～絵本を読み合ってよさや美しさを伝え合おう～ ・ 鑑賞の視点を伝える。 ・ グループを中心に作品を読み合い交流する時間をとる。 ・ 全体の場で発表する時間をとる。	アー② エー② ・活動の様子の観察、発言内容 ・自己評価カード

7 本時の目標

- 絵の具等の画材や筆の特徴を生かしたり、濃淡やにじみ等の技法をはじめ表し方を工夫したりする。

8 準備物

指導者	○画材 …コンテ、クレパス、花紙、布類、墨汁 ○用具等…画用紙、カッターナイフ、カッター板、皿、ストロー、糸、水引 ○その他…自己評価シート
児童	水彩絵の具、習字道具、クレパス、折り紙、色画用紙、はさみ、のり、使いたい材料、個人用クリアファイル、参考写真

9 本時の展開

学習活動	教師の支援 *努力を要すると判断される児童への支援	評価規準・評価方法
1 本時の目標を確認し学習の見通しをもつ。		
○ 自分がイメージした場面に合うよう、水彩絵の具や筆、その他の方法を生かしながら、濃淡やにじみ等、表し方を工夫しよう。		
○ 具について確認する。	○ 物語の場面や試しがきした絵、場所の写真等を見せ、ふるさとを大切に思う心を伝える目的を再確認させる。	
2 表したいイメージに合う表現方法を選んだり試したりしながら、表現する。		
○ 試しがきした絵をもとに、イメージに合う表現方法を試しては選び、絵に表す。	○ 試しがきした絵から出発するが初めの考えから変わってもよいことを伝える。 ○ 写真資料を参考にしてもよいが、実物にとらわれすぎないでよいことを伝える。 * 『〇〇百年史』や『〇〇町』等の写真集や図鑑等から参考にできるところを提示したり、表し方の例を提案したりしながら、どう表すか自分で決められるように支援する。 * 構想の練り直しや試しがきができるよう、画用紙を多めに用意しておく。また、指導者が一緒にかいてみる。	ウー① ・活動の様子を観察 ・自己評価カード ・作品や試しがきしているもの
3 本時の学習のまとめをする。		
○ 活動のふり返りと次時の見通しをもち、自己評価カードに記入する。	○ 自己評価カードに記入させ、ワークシートに貼らせる。	
○ 後片付けをする。	○ 片付けの手順の説明と指示を出す。	